

明治・大正

明治17(1884)

① 段原村出身の和田郁次郎率いる広島県人25戸103名が起工直前の宇品港から、新天地をもとめて北海道へ渡った。

宇品港

横浜

明治2(1869)

蝦夷地から北海道に改名
開拓使 設置

② 郁次郎らは現・北広島付近の原野に入り、開墾をはじめた。

③ 他県からも多くの入植があったが、生活は過酷だった。それを物語るように、幼な子の死をとむらう石仏が今も残っている。

明治25(1892) 東部小の前身 簡易教育所 開所

明治27(1894)

④ 開墾の功績が称えられ当時の北海道庁長官から「和田村」の名を提案されるも、同郷の士と開いた地を郁次郎は「広島村」と名付けた。

昭和20(1945) ⑤ 昭和に入り広島に原爆が投下される

明治22(1889) 市制施行「広島市」誕生

明治30(1897) 段原小 開校

昭和39(1964) 段原小と東部小が姉妹校になる

昭和43(1968) 北海道百年「広島村」から「広島町」へ

昭和51(1976)

⑥ 赤ヘル旋風の中、急激に人口増加した広島町に少年野球チーム「カープジュニア」誕生。本家カープの監督や人気選手たちが毎年訪れた。

昭和48(1973)~ ⑥ 比治山のかげで焼失をまぬがれ、復興から取り残された段原一帯は、戦後30年近く経ちようやく再開発がはじまった。

いちいの木が段原小へ贈られる

昭和50(1975)~

⑦ 初のリーグ優勝を皮切りにカープの黄金期が到来

昭和59(1984)

⑧ 一方、広島市では博物館基本構想を念頭に「北海道移住100年記念展」が市内デパートで開催された。この時、開拓者子孫らが夢を託して物品資料を寄贈した。

昭和

平成

平成元年(1989)

⑨ 市制施行100周年にあわせ、現代美術館オープン。後に凍結される博物館構想に繋がる比治山芸術公園基本計画の一環だった。

平成9(1997) 段原小100周年(東部小から式典参加)
平成21(2009) 段原隣接地にカープ本拠地「マツダスタジアム」オープン
平成26(2014) 段原再開発事業 完了

1989映画「ファールド・オブ・ドリームス」公開

平成4(1992) 東部小100周年(段原小から式典参加)
平成8(1996) 「広島町」から「北広島市」へ
広島市から平和の灯を分火

⑩ 平成の終わりに近づき、北広島の魅力を伝えるサイトや施設が次々と開設される。

平成24(2012) 動画サイト「きたひろ.TV」開局
平成26(2014) 「エコミュージアムセンター」知新の駅」開館

平成31/令和元(2019)

⑪ 現代美術館が開館30周年を迎える。

時代は令和に入りまして、「タイトルとホコラとツーリズム season6」展の開幕です!

令和5(2023) ⑫ 北広島には、日本ハムファイターズ本拠地「ボールパーク」がオープン予定

遠く離れた2つの街が、それぞれどのような時代をつかっていくか、楽しみです。

令和

タイトルとホコラとツーリズム

フィールド・オブ・ドリームス

《もうひとつの広島》

2019年8月3日(土) - 9月29日(日)

広島市現代美術館 地下1階ミュージアムスタジオ [入場無料]

中村裕太 + 谷本研十

Ken Tanimoto + Yuta Nakamura

Season 6

Illustrated by Ken Tanimoto

タイルとホコラとツーリズム

2019年8月3日(土) — 9月29日(日) 広島市現代美術館 地下1階ミュージアムスタジオ

休館日：月曜日（ただし、8月12日、9月16日、9月23日は開館）、8月13日（火）、9月17日（火）、9月24日（火） 開館時間10:00-17:00 【入場無料】

「タイルとホコラとツーリズム」は、京都市内に点在する路傍祠のリサーチをきっかけに、美術家の谷本研と中村裕太が2014年より展開するプロジェクトです。祠にまつわる土着の信仰や人々の営みに向き合い、観光のまなざしと独自のユーモアを交えて作品を生み出してきました。

今回は、広島市現代美術館がある比治山のふもとに位置する段原地区でのリサーチを出発点としました。そして、明治期に同地区出身の和田郁次郎(1847-1928) 率いる多くの広島県人が、北海道の現・北広島市に開拓移民として入植したことに着目しました。本展では、1984年に広島市内のデパートで開催された「北海道移住100年記念展」を糸口に、当時の記録資料や、現在の北広島市民の手で制作された映像コンテンツなどを交えて展示が構成されます。野球場に見立てた会場に現れる“もうひとつの広島”をお楽しみください。

「夏のオープンラボ」は多彩な表現活動について様々な方法による紹介を試み、美術館活動の可能性を探る、当館における実験場としての企画です。



「season3《白川道中膝栗毛》」2016 撮影：麦生田兵吾

谷本研+中村裕太

谷本研（1973年神戸生まれ、滋賀在住。1998年京都市立芸術大学大学院美術研究科造形構想修了）と中村裕太（1983年東京生まれ、京都在住。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士（芸術）によるゆるやかなユニット。

過去の展覧会に、街中に点在する路傍祠やそこに使用されるタイルに着目した「タイルとホコラとツーリズム」（Gallery PARC、京都、2014年）、東シナ海を取り囲む対馬・沖縄・台湾・済州島にみられる土着信仰のツアー記録を作品化した「season4《一路漫風!》」（京都芸術センター、2017年）、石上げの風習をモチーフにギャラリーのビルを山と川に見立てた「season5《山へ、川へ。》」（Gallery PARC、京都、2018年）などがある。



「season2《こちら地蔵本準備室》」2015 撮影：表恒匡

HIROSHIMA

広島 [広島県]



1：駅前通りより比治山をのぞむ 2：交差点に飾られる子供たちが描いた昔の段原の面影 3：マツダスタジアム 4：宇品島の路傍祠

KITA-HIROSHIMA

北広島 [北海道]



5：入植翌年の明治十八年と刻まれた石仏 6：街の魅力を伝える市民による動画サイト「きたひろ.TV」 kitahiro.tv 7：ボールパーク建設予定地 8：和田郁次郎が入植した輪厚川周辺

展覧会特設サイト



<https://www.hiroshima-moca.jp/tht6/>

関連プログラム

プレイボール・トーク

出演：谷本研+中村裕太
聞き手：本展担当学芸員
日時：8月3日(土) 14:00-15:30
会場：地下1階ミュージアムスタジオ
事前申込不要

ワークショップ「キャンブイン似島」

かつて和田郁次郎たちが旅立った広島港(宇品)から出航。似島を北海道に見立て、集落の散策やバウムクーヘンづくりをしましょう。
講師：谷本研+中村裕太 協力：広島市似島臨海少年自然の家
日時：9月8日(日) 10:30-15:30 (広島港集合、現地解散)
定員：15名 要事前申込、参加無料(※船賃は自己負担) 応募方法：当館ウェブサイト上の応募フォーム、または往復はがきに氏名(1通につき3名まで)、年齢、住所、電話番号を明記の上、ご応募ください。8月20日(火) 必着、抽選の場合あり

クライマックス・トーク

出演：港千尋(写真家、多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授) 谷本研+中村裕太
日時：9月29日(日) 14:00-15:30
会場：地下1階ミュージアムスタジオ
事前申込不要



広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1 TEL. 082-264-1121
www.hiroshima-moca.jp

- 美術館専用の駐車場はありませんので、周辺の駐車場をご利用ください。
- 比治山公園内(約120台分、無料、利用時間9:00-19:00)
 - 広島段原ショッピングセンター駐車場(1Fサービスカウンターへ当館の入館証明提示で当日に限り3時間無料)
- 交通案内
- 広島駅より|路面電車「広島港」行き→「比治山下」下車、約500m
 - 八丁堀より|広島バス「大学病院」行き(比治山トンネル経由)→「段原中央」下車、[比治山スカイウォーク] 経由で約550m
 - 平和公園より|ひろしま観光ループバス「ひろしまいぶるーぶ」(オレンジルート)→「現代美術館前」下車、約100m